

来週の市場とレート予想

	9/24(木)	9/25(金)	9/28(月)	9/29(火)	9/30(水)	10/1(木)	10/2(金)
無担保O/N	0.03% ~	0.125%		0.001%		0.125%	
銀行券	+ 2,200	+ 1,000	+ 1,000	ト ン	△ 1,000	ト ン	ト ン
財政債	+ 42,800	△ 1,000	+ 10,000	△ 15,000	+ 1,000	△ 5,000	△ 35,000
資金需給	余 45,000	ト ン	余 11,000	不 15,000	ト ン	不 5,000	不 35,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M・1Y) 国債発行(5、10、20、30年) 国債償還(5、10、20、変動15年)		児童手当の支払 国庫短期証券発行・償還(3M)	財投貸付回収			法人税・保険揚げ
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,100 CP等買入 △ 1,000 社債等買入 △ 100	被災地支援 △ 1,000					
オベスタート	国債買入 + 8,000 共通担保(全店) + 1,300 ETF買入 + 100	被災地支援 + 1,000 国債買入 + 8,200 短国買入 + 10,000					
(日本)	公社債投資家別売買動向(8月) 全産業活動指数(7月)	CPI(全国8月、 東京都区部9月) 企業向けサービス価格指数(8月) 日銀営業毎旬報告(9月20日現在) 日銀が保有する国債の銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の銘柄別買入額	黒田日銀総裁講演(大阪市)	民間企業資本ストック(4-6月)	鉱工業生産指数(8月) 決済動向(8月) 住宅着工統計(8月)	日銀短観(9月調査) 対外対内証券売買	完全失業率(8月) 有効求人倍率(8月) 日銀短観(9月全容、企業の物価見通し概要) 日銀当座預金増減要因(10月見込み) マネタリーベース(9月) 日銀が保有する国債の銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の銘柄別買入額
	米 新規失業保険申請件数(19日終了週) 米 新築住宅販売件数(8月) 米 FRB議長講演	米 米中首脳会談(ホワイトハウス) 米 4-6月GDP(確定値)	米 個人消費支出・所得(8月) 米 中古住宅販売成約指数(8月) 米 シカゴ連銀総裁講演 米 サンフランシスコ連銀総裁講演	米 S&P/ケース・シラー住宅価格指数(7月) 米 消費者信頼感指数(9月) 欧 ユーロ圏景況感指数(9月) 欧 ユーロ圏消費者信頼感指数(9月、改定値)	米 MBA住宅ローン申請指数(25日終了週) 米 ADP雇用統計(9月) 米 FRB議長講演 欧 ユーロ圏失業率(8月) 欧 ユーロ圏CPI(9月、速報値)	米 新規失業保険申請件数 米 ISM製造業景況指数(9月) 米 サンフランシスコ連銀総裁講演	米 雇用統計(9月) 米 ボストン連銀主催の会合でFRB副議長ら講演
(海外)							

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	0.117 ~ 0.120
SPOT 2M	0.118 ~ 0.125
SPOT 3M	0.118 ~ 0.130
SPOT 6M	0.135 ~ 0.150

＜インターバンク＞

今週の日銀当座預金残高は、週初233兆円台から始まり、その後は国債・国庫短期証券買入オペ及び貸出を増加するための資金供給等の要因で増加し、週末にかけて235兆円台で推移した。無担保コールON物は一部試し取りが実施されたことから、0.12%超の出合いも散見されたが、概ね0.074~0.077%で推移した。6日積みとなる週末は地合いが強まり、0.076~0.079%で取引された。加重平均金利は試し取りの影響があった16日には0.091%まで上昇したが、その他は0.076~0.077%となった。ターム物は、期内の2W物で0.11%台後半の出合いとなったものの、9月末越えとなる期間では調達意欲が弱く、出合いは見られなかった。14・15日に開催された日銀金融政策決定会合では金融市場調節方針の現状維持が決定された他、海外経済に関する判断を「新興国が減速している」として下方修正した。

翻って米国では16・17日のFOMCで、注目されていた利上げが見送られ現状維持を決定した。声明では「最近の世界的な経済・金融情勢は経済活動をやや抑制する可能性があり、短期的にインフレに一層の下向き圧力をかける可能性が高い」と指摘した。来週の材料は国内では8月の消費者物価指数(25日)、日銀短観(10月1日)、完全失業率(10月2日)があり、海外では米4~6月期GDP(25日)、米雇用統計(10月2日)がある。

【オープン市場】

NCD 3M	0.090 ~ 0.120
CP3M(a-1+)	0.070 ~ 0.080
TDB 3M	△0.020 ~ 0.000
現先(on/1w)	0.065 ~ 0.090

＜CP＞

今週は、期落ち額9600億円程度(金融機関・ABCP除く)に対し案件減少し、発行額は9000億円に止まった。a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.075%近辺~0.097%割れとなり、投資家・ディーラーの購入ニーズが強く、低下地合いとなった。14日に、CP等買入オペ(9/17スタート:オファー額5,000億円)が実施された。足切り(按分)レートは前回レートを大きく下回り、0.058%となった。現先レートは、0.06%台後半~0.100%近辺で推移した。なお、来週の期落ち額は約5100億円となっている。

＜TDB＞

17日に国庫短期証券3M第559回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.0103%(前回債0.0000%)、平均落札レートは△0.0215%(前回債△0.0032%)と前回債から利回りは低下し、3Mでは△0.02%近辺の出合い、6Mでは△0.02%近辺の地合い、1Yは0.095%近辺の出合いだった。来週24日に3Mの入札が行われる予定である。

＜レポ＞

足許GCは週初T/Nの15日受渡が0.08%まで上昇したことを受け、先週末のS/N対比0.03%程度上昇の0.04%近辺の出合から始まった。週央までは概ね0.03~0.04%のレンジで推移し、振替停止期間明け・国債の大量発行日となる24日受渡しではS/Nで0.07~0.08%、T/Nで0.08~0.09%まで上昇した。週末には短国・国債買入オペが合計1兆8,200億円オファーされたにも関わらず、レートは前日とほぼ変わらず0.075~0.085%で出合をつけ越週した。SCは10年336・337回債がO/N物・ターム物ともに週を通してネガティブレートで推移した。また一般的な銘柄でも期末要因から9月末越えでネガティブレートでの引合が多く見られた。5年債は123・124回債、10年債は315・321・324・327・329・333・334・335・339回債、20年債は153回債、30年債は45・46回債に引合が多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。